



「備中宇治茶の生みの親」

ひろかね かずお

広金 一男 さん

宇治

宇治の魅力は土地や自然だと言う広金さん。石灰岩が多い土地で水がおいしく、宇治の人は生活水として使っているそうです。かつて県北の美作でお茶を作って成功していたこともあり、宇治でもやろうということになりました。村長の薦めで宇治にお茶づくりを広めることを条件に、2年間静岡にお茶の勉強をしに行ったのが始まりです。もともと高粱には野生のお茶しかありませんでしたが、広金さんが持って帰ったお茶の苗のおかげで宇治と松原に茶畑が増えました。

お茶の品評会には積極的に参加し、美味しいお茶をつくりたいと意欲満々です。お茶は土地によって味が違うそうで、日本全国のお茶を飲み比べてみたいそうです。

お話を聞きながらいただいたお茶はとてもあまくて美味しかったです。お茶をいれる姿にも職人さんのかっこよさがありました。宇治っ祭では地域のみなさんに喜んでもらおうと、お茶を提供されています。



「かんばら茶屋」(p.12参照)、
「広金製茶」(p.17参照)などで販売中。